

不登校・小1プロブレム等

ネイパル足寄

体験活動を通して協調性や社会性を育む

ネイパル春くらぶ

1 事業のねらい

様々な体験活動をとおして協調性や社会性を育むとともに、進学、進級の心構えを身に付ける。

2 事業の概要

- 期日 R3.3.27(土)～29(月) 2泊3日
- 対象 小学5年生～中学生
- 人数 25名
- 場所 ネイパル足寄

3 プログラム

	6:30	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
3/27 (土)								受付 13:30	開会		アイスブレイク 課題解決ゲーム	夕食	学習 タイム	入浴 就寝準備	就寝	
3/28 (日)	起床 洗面	あさどく 朝食	活動 準備	生活習慣を 見直そう	まちなかフォトラリー (昼食)					スポーツ交流 ポッチャ	夕食	学習 タイム	入浴 就寝準備	就寝		
3/29 (月)	起床 洗面	あさどく 朝食	清掃	思い出フォト フレームづくり	振 返	閉 会	解散 12:00									

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 自己理解・他者理解の場の設定
 - ・ソーシャルスキルトレーニングを継続的に行い、人間関係を築く力を向上させることができるようにした。
 - ・協調性を身に付けるため、グループワークを軸に活動を進め、グループ内で意見を交わしたり、作業を分担したりする機会を多く設定した。
- 生活習慣・学習習慣の定着
 - ・「学習タイム」「あさどく」などの時間を設定するとともに、中高生用の「早寝早起き朝ごはん」普及啓発資料を活用することで、進級・進学後の自らの生活習慣を見直し、望ましい生活習慣を目指そうとする意識を高めることができるようにした。



チームワークを高める体験活動



課題解決ゲームで人間関係づくり

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・全てのプログラムにおいて「良かった」「少し良かった」と90.9%以上の参加者が回答しており、活動を通して満足感や達成感を得ていた。
- 参加者の声
 - ・自分は人見知りで初対面の人と話すことが苦手だったけど、いろいろな学年の友だちができて良かった。
 - ・何でも「できない」と考えるのではなく、「やってみよう、挑戦してみよう」と思う心が大切だと思った。
 - ・中学校に入学するにあたって、生活習慣を改めて見直してみようと思った。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 参加者の声で「初対面の人と話すのが苦手だったがいろいろな学年の友だちができて良かった」とあるように、校種をまたいだグループ編成や、短時間のソーシャルスキルトレーニングを継続的に取り入れることにより、社会性や協調性を育成できたものと考えられる。
- 事業終了後も生活習慣、学習習慣の定着を図るため、関係機関との連携を一層進める必要がある。



企画のポイント

進級・進学後の自分自身と向き合うための、体験活動やトレーニングの設定

不登校・小1プロブレム等

ネイパル厚岸

人間関係を学び、自分の役割や存在を自覚する

道東チャレンジキャンプ

1 事業のねらい

野外における自然体験や冒険体験等とおして、自分と向き合うとともに、集団生活を通じてよりよい人間関係について学んだり、自分の役割や存在を自覚したりすることを目指す。

2 事業の概要

- 期日 R3.2.8(月)～10(水) 2泊3日
- 対象 釧路市学校適応指導教室に通う小学5年生～中学生
- 人数 6名
- 場所 ネイパル厚岸・美幌緑の村森林公園・美幌博物館等
- 協力 美幌博物館・釧路市学校適応指導教室

3 プログラム

2/8 (月)			受付	【移動】	昼食	スノーシュー体験 圧雪ブロックづくり	休憩	夕食	入浴	ふり かえり	就寝準備	就寝
2/9 (火)	起床	朝食	活動準備	雪中キャンプ体験① (雪のカフェづくり)	移動	美幌美術館見学 バードコール作り	移動	夕食 雪中キャンプ 体験②	入浴	ふり かえり	就寝準備	就寝
2/10 (水)	起床	朝食		【移動】	解散式							

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 参加者の実態に配慮した体験活動
 - ・スノーシューや雪中キャンプなど、普段運動が不足しがちな参加者にとって適度な負荷のあるアクティビティを取り入れ、やり遂げた際の達成感を得られるようにした。
 - ・参加者の実態を踏まえ、体験活動を多く設定し、その中で仲間と一緒に楽しく活動し話し合うことで自然と交流を深めることができるようにプログラムの設定を行った。
- 望ましい生活習慣の確立
 - ・生活習慣が乱れがちになる参加者の実態を踏まえ、食事・入浴・就寝・起床などの時間に対する意識付けをすることで、基本的な生活習慣を確立できるようプログラムを工夫した。



達成感を得るための活動



仲間と楽しく過ごす場面設定

5 事業の評価



- IKR 調査による変化
 - ・「日常的行動」が0.6P 向上
 - ・「交友・協調」は僅かに低下
- 参加者の声
 - ・自然の中でたくさんの経験ができた。今後の生活に生かしたいと思う。(参加者)
 - ・初めての活動が多く、大変貴重な経験となり、自信につながると思う。(引率教員)

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「日常的行動」が向上したことから、規則正しい生活を意識させたことで、その大切さについて理解し、生活を見直そうとする意欲につながったものと考えられる。
- 「交友・協調」に減少が見られたことから、それぞれの自主性を生かすとともに、仲間と共に協力してやり遂げる活動をより多く取り入れるなど、今後のプログラムについて慎重に検討する必要がある。



企画のポイント

参加者の実態を踏まえた、他者との交流を深めるプログラムを積極的な実施